

造形作品「Still」

浜谷信彦

The Art work “Still”

Nobuhiko HAMAYA

Abstract

The creation of this piece of art is in itself an artistic expression, and at the same time, an act of devotion. I made dove feathers, which symbolize peace, of white porcelain, and put the feathers one by one in the Cross-shaped container. The white porcelain feathers are thin and very fragile, like the world that we live in today. I prayed as I created the work. The process seems to be a prayer like the offering of flowers, and the work shows the traces of a number of prayers.

Installation art is a genre of contemporary art and is often designed for a specific place or for a temporary period of time.

Installation Art is an artistic genre and is designed for a specific place or for a temporary period of time. Artists need to have sufficient time and preparation to display this type of work. Therefore, it's hard to relocate or re-establish the works. Installation Art is usually not suitable for Artist Associations' exhibitions or traveling exhibitions where the time for display is relatively short. However, in this sculpture I incorporated the concepts of Installation Art into an artwork brought together in a container. This artwork “Still” was exhibited in the Artist Associations' Exhibitions at The National Art Center TOKYO in 2018.

[研究制作]

この作品「Still」は、白磁を主として用いて制作した造形作品である。平和の象徴であるハトの羽根を白磁で制作し、キリストの象徴である十字架を象った箱の中に一枚ずつ静かに積み重ねていった。その造形プロセスは祈りと不可分であり、まるで献花の様に、目に見えない「祈り」の痕跡が堆積し、量となり表出したものである。本作品は2018年に制作し、美術公募展 第64回一陽展 国立審美術館（東京）にて発表している。

主題について

白磁の羽根について、ハトはオリーブの小枝とともに平和の象徴となっている。旧約聖書の創世記に記されているノア箱舟と大洪水のエピソードにおいて、洪水後にノアは水がひいたかどうかを確かめるために箱舟から鳩を放して一度目はそのまま戻ってきたが、再度放たれた際に、鳩はくちばしにオリーブの葉をくわえており、水がひいたことを知らせた。創世記8章8節-11節

この平和の訪れを知らせた存在として主な由来であると考えられる。この他、新約聖書の福音書にも聖霊の象徴として登場する。

本作品では、その平和の象徴であるハトの羽根を薄い白磁で制作した。白磁は透光性があり白く、優しく、美しいが、脆くて直ぐに壊れてしまいそうな儂いイメージを合わせ持っている。

今日、世界の平和から些細な日々の暮らしまで、確かなものはあるのだろうか。世界の多くの人々

が平和を希求しているがその実現は容易ではない。また、近年のこれまでにない気象現象等により痛ましい災害も起きている。自然への畏敬の念を忘れてしまった人間の過信や傲りによる事故も少なくはないのではないだろうか。それぞれの立場や時代によって変わってしまう人の正義観や科学技術の延長線上に、果して平和や平安は訪れるのだろうか。

これらの今日の平和のイメージを脆くて儂い白磁の羽根に重ねて制作を行った。恵みとしての森羅万象、自然や人間社会との関係を見つめ、心を静めて神の声に耳をかたむける、その様な祈りと共にこの作品はうまれてきた。

彫刻的造形とインスタレーション的手法

現代美術における表現方法の一つであるインスタレーションでは、場所との関係性や設置方法が作品の重要な要素であり、作品の設置に時間を要する場合が多い。

一般的に美術公募団体展等や巡回展では、美術館で一斉に搬入し短時間で陳列することが求められるため、インスタレーション的な作品展示には不向きである。

本作品の一つの試みとして、彫刻的な塊の造形をベースに一部分インスタレーション的な手法を搬入前に取り入れて制作している。具体的には、十字架の造形の中で羽根を一枚ずつ積み重ねていった。この方法により美術公募展の短い時間でスムーズに搬入から陳列・展示を行なうことができた。



図1 作品「Still」
浜谷信彦 2018年制作 (国立新美術館)
白磁 石粉粘土 檜ほか 概寸W150cm×W120cm×H18cm



图2 部分 羽根



图3 展示室



图4 部分 右侧

〈文献〉

- 日本聖書協会「聖書（新共同訳）」旧約聖書：創世記